

INCCはJPSと同じく、年2回Journalを発行している。最新のJournalから興味あるおもしろい記事を紹介してみたい。JPSの顧問をしているJoan Van Patternからの記事で100年前のアメリカ人の生活に関する記事(What was life like?)が興味深い。Old Noritakeが輸出されたときのアメリカの様子が良く判る。

読みやすいように、多少の編集もした。現在のアメリカの状況との比較も蛇足ながら()内に附記させて頂いた。

又100年前といえば日本でも明治維新後、世の中が大きく変わり、一般の人の生活も激しく変わった時である。都市での人の移動も、歩き、駕籠や、馬などから馬車鉄道、路面電車と変わり、洋食、洋服が紹介され海外との交流が盛んになり始めた頃である。

100年前の アメリカの健康、医療状況について

- 1 全米の平均寿命が47歳であった。(2013年の男女合わせた全米平均寿命はなんと78.8歳、30年も長生きしている生活)
- 2 出産の95%が病院でなく自宅で行われた。(現在、自宅出産は1%以下であるが、増える傾向にある)
- 3 医者90%が大学での医療教育を受けていない。彼らは政府の教育標準に満たないとまで、言われるメディカルスクールに通い現場教育された。(現在の医者はMD, Doctor of Medicine,かDO, Doctor of Osteopathicの学位をもつ、医療費が高いはずだ)
- 4 当時の5大死因は、1. 肺炎、インフルエンザ 2. 結核 3. 下痢 4. 心臓病 5. 脳卒中。(2010年の5大死因は、順に心臓病、ガン、慢性呼吸疾患、事故死、アルツハイマーである)
- 5 マリワナ、ヘロイン、モルヒネなどのドラッグは当時薬局で簡単に買った。薬剤師は、ヘロインはすべての病気に効き、元気を付け体の調子を整える万能薬として処方されていた。(もちろん今はすべて販売禁止、売買すれば罰せられる、一部でマリワナが医療用薬として最近では使用され許可されている)

100年前の 住宅、生活環境について

- 1 住宅のたった14%のみがバスタブ(浴槽)を設置していた。(今は97%以上の家がバスタブを設けている)
- 2 殆どの女性は一月に一回の洗髪であり、いまのシャンプー、リンスは無く硼砂又は卵の黄身を使用していた。
- 3 アメリカ人の好きなクロスワード、缶ビール、アイスティーはまだ無かった。(それぞれ1913年、1909年、1904年に世の中に出てきた)
- 4 母の日、父の日のお祝い日はまだ無かった。(Mother's Dayは5月第二日曜日と1914年に決まり、Father's Dayは6月第三日曜日と1972年にお祝い日として決まる)
- 5 全米15%の世帯で少なくともフルタイムの住み込み使用人もしくは、お手伝いさんが一人いた。(2012年調査では全米で約73万人の住み込みお手伝いさんがいる)

100年前の 物価、年収所得について

- 1 コロラド州のデンバーからニューヨークまでの3分間電話料金は当時11ドルもしている。(2013年、同じ長距離電話3分間は平均2ドル40セントのみ、電話通信がいかに安価になったことか)
- 2 全米労働者の時間当たりの平均賃金は、22セント。(2013年、平均賃金は24ドル17セントと100倍以上)
- 3 全米労働者の平均年収は、200ドルから400ドル。(2012年調査では、44,000ドル、100倍以上)
- 4 専門職の優秀な会計士の年間所得は、2,000ドル、歯医者は2,500ドル、獣医は、1,500から4,000ドル。そしてメカニカル エンジニアは約5,000ドルであった。(2013年、それぞれ58,000ドル、61,000ドル、46,000ドル、80,000ドル、約20倍以上に増加)
- 5 食料品物価は、砂糖 ポンドあたり4セント、1ダースの卵、14セント、コーヒーはポンドあたり15セント。(それぞれ、16セント、2ドル50セント、20ドルとコーヒーの値上がり率が非常に高い)